

平成23年度 たっち 事業報告書要約

平成23年度の概況

府中市子ども家庭支援センターたっちは、当法人が府中市よりサービス3事業とファミリー・サポート・センター事務局の計4事業を、受託運営している。

①ひろばの延べ利用者数は前年度より約9千人増の12万5千人以上に達した。
 ②面接・電話相談、講座、交流会、親支援事業、身体測定などの子育て支援を行った。
 ③リフレッシュ保育は年間1,911名の利用(99%以上が市内利用)があり、前年度利用数を上回った。
 ④ファミリー・サポート事業は、活動件数が前年度より約150件減少した。4月が前年度同月を大きく下回り、東日本大震災の影響によるものと考えられる。

1 総合相談受付や情報コーナー及びひろば等で、地域の子育て情報を幅広く提供した。また、掃除の徹底や観葉植物等を設置するなど、館内の美化にも努めた。専任相談員を配置し、現場間の連携を強化し、府中市子育て支援課など他機関との連携は更に深まっている。

2 ひろばは、一日平均約170組356名の利用があり、利用者の求めるタイミングを意識し、声かけに努めた。安全確保のため、入館制限を実施したが、スタッフの工夫により、できる限り制限する回数を減らすことができた。

3 府中市子育て支援課及びたっち・しらとりの連携については、連絡会等での情報共有を図った。更なる連携強化に向けて、引き続き協議、検討をしていきたい。

4 法人主催の研修をはじめ、市を通した児童相談所等への体験研修や各種専門的研修を実施し、職員個々のスキルアップを図った。各部署間の連携強化に向けて、事例検討、対応に関するロールプレイ研修等を内部研修として実施した。

5 防災に関しては、府中市と連携し対応した。全体訓練をほぼ毎月実施、内2回に関しては東日本大震災を教訓とした、利用者参加型火災避難訓練を実施した。更に改築した緑苑との震災時等における新たな連携強化に向けて、担当者による協議を行った。

平成24年度の課題

1 利用者ニーズを把握して、支援の充実を図る
利用者にとって、必要なサービス、必要な支援を提供する。

2 利用者の安心・安全を保障し、事業の充実を図る
防災・防犯のための研修、施設整備を行い、利用者が安心して過ごすことのできる施設であり続ける。

3 職員の資質・専門性の向上を図る
サービス評価の結果を踏まえ、会計の仕組みや事業を取り巻く制度・情勢の動向の理解を重点項目とするチャレンジプランに取り組む。

4 「しらとり」との協働
要支援世帯への対応、サービス事業のための連携強化、ボランティア育成、受け入れのための基盤整備を行う。

5 事業運営における市職員との協働体制の更なる充実

6 職員が心身ともに健全に勤務できる環境整備
・「加湿」「換気」「空調」の安定による快適な環境づくり。
・ファミリー・サポート・センター会員のための居場所づくり。

7 ライフ・ワーク・バランスの推進
前年度に引き続き、毎週1回「ノー残業デイ」(法人の方針、また、府中市全庁水曜日)を設定し、超過勤務によるオーバーワークを抑制する。

		サービス利用・提供状況	平成23年度事業計画の執行評価
運営・管理		①平成17年3月のオープン以来、府中市の子育て支援の中核施設として、浸透し定着している。 ②くるる館内の合同防災訓練をはじめ、たっち内全体防災訓練をほぼ毎月実施した。 ③実習生を2校より、また中高生職場体験を積極的に受け入れた。 ④よりよい施設づくりに向け、利用者アンケートを実施した(1月:ひろば・リフレッシュ保育)。 ⑥個人情報対策は、入職時研修に位置づけ徹底を図った。 ⑦年間125名のボランティアを受け入れた。前年度に引き続き、受託事業として市社協の協力を得て「子育て支援ボランティア育成講座」「同 ステップアップ講座」を実施した。 ⑧子育て交流会すやすや・ころりんクラブ(0歳児対象)を各3回、はいぼ(1歳児対象)を各2回、子育て講座は対象(2歳児母親対象・妊婦世帯対象・1歳児父親対象)を分けて実施した。	①職員が心身ともに健全に業務に従事できるようマネジメントした。 ②それぞれがスキルアップできる研修プログラムを構築実施した。 ③子育て交流会・講座は部署の枠を超えて職員が企画・運営した。 ④協働する府中市と共に節電に努め、事業所に設定された消費量に電力使用量を止めた。ひろばを中心とする館内運営に大きく支障をきたすことはなかった。
	総合相談	①法人職員と市相談員とで個別事例の検討や共有、事業等の協議を重ね対応した。 ②新規相談は723件で、内容は養育不安、離婚や精神疾患、児童虐待に関するものなど多岐に渡り、世帯の状況によっては来所・電話相談のほか、家庭訪問や関係機関との連携を積極的に行った。近年警察との連携が密になり、児童、生徒に対する相談も目立ってきている。 ③身体測定や社会資源紹介などで、気軽に相談してもらうことで予防的関わりが出来た。	①市相談員と協働・役割分担しながら相談対応を行った。 ②①同様、親支援事業にも対応した。 ③受付窓口や保健室での対応を通じ、予防的関わりを実践した。
	ひろば	①登録総数は50,000名強。平成23年度単年では、5,827名の新規登録者があり、その約60%が市外在住者。年間利用者数の割合では約29%にとどまっておき、市内外の割合は数年横ばいの状況である。利用児の多くは未就園児で、3歳までが92%強を占めた。 ②ひろば利用時に登録カード忘れ利用者のために、当日カード発行による入館を昨年に引き続き行い、23年度は1,982名(市内1,219名、市外763名)の発行を行った。 ③歌や手遊びなどで親子一緒に楽しむ「スポットタイム」を週3回実施し好評を得た。「ボールプールで遊ぼう」や、母親の新たな仲間作りための「ひろばでタッチ」を毎月実施し、新たな試みとして、未就園児だけでなく、就園児も楽しめるように、ぬり絵や折紙コーナー、カプラコーナーを設置した「お楽しみの日」を実施し、親子一緒に楽しんでもらった。	①年間利用者が12万人を超えた中で大きな事故もなく運営できた。 ②入館制限実施日が1日あった。 ③ひろば内防災対策や利用者荷物棚の設置をし、環境整備を行った。 ④スポットタイムの参加を目的に来館する利用者も増え、新たに実施した行事も好評を得ている。
家族支援	リフレッシュ保育	①リフレッシュ保育新規登録者数は432名、利用者数は延べ1,911名で、ともに前年度より増加した。利用児の年齢は1～2歳が約7割を占めた。 ②子どもも保護者も安心して利用できる保育室であるよう、子どもひとりひとりのありのままの姿を受け止め、保護者の気持ちに共感して、個別的な関わりを行った。 ③保育士のスキルアップのため、施設内外の研修に交替で参加し、会議などを利用し利用児の状況について共有・検討した。また、定期的に避難訓練を実施し、緊急時に備えた。	①実利用人数もやや増加した。 ②さまざまな課題を抱えた子ども・保護者が増え、他部署を含め、職員間の情報共有・検討を密に行った。 ③研修参加や防災訓練の参加を通じ、スキルアップ・意識向上を図った。
	ファミリーサポート	①新規登録者は293名で会員数合計1,440名(依頼1,032名提供316名両方92名)となった。 ②年間活動件数は5,790件、ペアリングの件数は162件だった。保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かりが849件、子どもの習い事の援助が712件、通級学級や学校への送り迎えなどが487件と続き、内障害のお子さんのサポートが1,165件と全体の約2割を占めた。 ③3.11震災時対応に関するアンケートを実施、災害時センター対応ルールを作成した。 ④提供会員のスキルアップのために、災害への備え・障害児へのサポートといった内容のステップアップ講座を実施した。 ⑤サブリーダーの活動として年11回の定例会で活動状況やよりよい運営について話し合ったほか、年2回の交流会を企画し、コラージュ制作やリコーダー演奏会を主体的に実施した。	①活動件数は約150件減少した。震災の影響によるものと思われる。 ②ペアリング件数は微増している。 ③近隣市の中でも、サブ・リーダーが最も多い。活動も年々充実している。 ④災害時対応強化に向けて、ルール・マニュアル整備を実施した。